

## 4. まとめ

2030年度までに温室効果ガス排出量を2013年度比で46%削減するという目標の達成に向けて、民生部門（家庭部門、業務部門）の更なる省エネルギー化、脱炭素化が喫緊の課題となっている。今後2030年度までに省エネルギー基準の基準値を段階的に引き上げていくこと等が予定されているが、この際、客観的な根拠データに基づいて合理的かつ実現可能な施策を講じることが重要である。

本資料では、非住宅建築物に関わる施策検討に資する情報を提供することを目的として、国土技術政策総合研究所が国土交通省住宅局と連携して収集した省エネルギー基準の適合性判定プログラム（Webプログラム）の入出力データ（2018～2021年度に申請された非住宅建築物55,445件分）を使用して、エネルギー消費性能の評価結果（基準適合率）及び外皮・設備設計仕様（一次エネルギー消費量基準の評価指標と外皮・設備設計仕様の関係）について分析した結果を示した。本資料の2章、3章で行った分析により得られた知見を以下に再掲する。

2章では、省エネ基準（一次エネルギー消費量基準、外皮基準）の適合率について分析を行った。

2.1節では、一次エネルギー消費量基準の評価指標（BEI及びBEIm）の度数分布及び累積相対度数を規模別、地域別に算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図2.1.1より、全用途、全地域、全規模におけるBEI及びBEImの平均値は0.73であり、BEI 1.0適合率は99.2%、BEI 0.8適合率は64.8%、BEI 0.6適合率は16.2%であることが分かる。
- ・ 図2.1.2と図2.1.3より、全用途、全地域で比較をすると、中規模と大規模の分布に大きな差はないことが分かる。一方、図2.1.4から分かるように、30,000m<sup>2</sup>以上の超大規模建築物のみを抽出すると、他の規模とは分布の形状が異なり、BEI及びBEImの平均値は0.64、BEI 0.8適合率は78.3%、BEI 0.6適合率は50.5%と、他の規模に比べてBEI及びBEImが小さい傾向がある。
- ・ 全ての建物用途を対象とした図2.1.1～2.1.4と建物用途「工場」を除いた図2.1.5～2.1.8を比較すると、特に超大規模（図2.1.4と図2.1.8）の分布が大きく異なることが分かる。建物用途「工場」を除くとBEI及びBEImの平均値は0.81と他の規模に比べて高くなり、BEI 0.8適合率は51.1%、BEI 0.6適合率は6.0%と低くなる。
- ・ 図2.1.9、2.1.13、2.1.17、2.1.21より、温暖地でBEI及びBEImがやや大きい傾向があるものの、地域間で大きな差は見られないことが分かる。
- ・ 図2.1.25、図2.1.26より、評価手法によってBEI及びBEImの分布の形状が大きく異なることが分かる。BEI及びBEImの平均値については、標準入力法は0.55、モデル建物法は0.74と標準入力法の方が小さい。また、BEI 0.8適合率（標準入力法は85.3%、モデル建物法は64.1%）、BEI 0.6適合率（標準入力法は62.4%、モデル建物法は14.7%）については標準入力法の方が高い。これは、簡易な評価法であるモデル建物法は、詳細な評価法である標準入力法に比べて過度に良い結果がでないように評価ロジックに制約（選択可能な省エネ技術が少ない）を設けていること、この制約があることによりBELS（建築物省エネルギー性能表示制度）の最高ランクを目指す等ハイスコアを取得したい先進的な建築物は標準入力法を選択する傾向があることによると考えられる。

2.2節では、建物用途別に一次エネルギー消費量基準の評価指標（BEI及びBEIm）の累積相対度数を

算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図 2.2.1 より、全地域、全規模で見ると、BEI 0.8 適合率については、①事務所、学校、工場は約 80%、②ホテル及び百貨店は約 60%、③病院、飲食店、集会所は約 40%、と 3 つのグループに分けられることが分かる。一方、BEI 0.6 適合率については、工場は 40%を超えているが、その他の建物用途は約 20%未満と低い。
- ・ 図 2.2.2 と図 2.2.3 より、規模別に BEI 0.8 適合率を比較すると、事務所、ホテル、病院、学校、集会所は大規模建築物の方が低くなり、百貨店と工場については大規模建築物の方が高くなる。飲食店については殆ど変わらない。
- ・ 図 2.2.4 より、超大規模の工場については BEI 0.8 適合率はほぼ 100%、BEI 0.6 適合率も約 85%と適合率が高いことが分かる。一方、工場以外の建物用途については、大規模の平均よりも BEI 0.8 適合率は低い。
- ・ 図 2.2.5～2.2.8 は太陽光発電による創エネルギー量を除いた BEI 及び BEIm の分布であり、この図における「BEI 0.5 適合率」は ZEB Ready の達成率を表す。図 2.2.5 より、ZEB Ready の達成率は 7.8%、建物用途「工場」を除くと 3.2%となっている。
- ・ 図 2.2.9、2.2.13、2.2.17、2.2.21 より、BEI 0.8 適合率について、①温かい地域の方が高い傾向にある用途（事務所、ホテル、集会所）②寒い地域の方が高い傾向にある用途（病院、百貨店）、③地域によって大きくは変わらない用途（学校、飲食店、工場）の 3 つのグループに分けられることが分かる。
- ・ 図 2.2.25 より、標準入力法で評価をした建築物については、事務所、百貨店、学校、集会所、工場については BEI 0.8 適合率が 80%を超えており、残りのホテル、病院、飲食店についても 60%を超えていることが分かる。モデル建物法に比べると建物用途間の BEI 0.8 適合率の差は小さい。

2.3 節では、主たる建物用途が「集会所」であり、モデル建物法で評価がなされた建築物を対象として、一次エネルギー消費量基準の評価指標（BEIm）の累積相対度数を算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図 2.3.1 より、全地域、全規模における BEI 0.80 適合率は、カラオケボックスについては 77.3%と高いが、その他の集会所用途については殆どが 50%を下回っており低い。特に、映画館は 12.5%と低い。
- ・ 図 2.3.2 と図 2.3.3 より、アスレチック場、カラオケボックス、ポーリング場以外は、中規模よりも大規模の方が BEI 0.80 適合率が低いことが分かる。
- ・ 地域間の差については、物件数が少ないため判断が難しいが大きな差は無いと言える。

2.4 節では、外皮基準の評価指標（BPI 及び BPIIm）の度数分布及び累積相対度数を規模別、地域別に算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図 2.4.1 より、全用途、全地域、全規模における BPI 及び BPIIm の平均値は 0.71 であり、BPI 1.0 適合率は 95.6%、BPI 0.8 適合率は 75.3%、BPI 0.6 適合率は 27.1%であることが分かる。
- ・ 図 2.4.2 と図 2.4.3 より、全用途、全地域で比較をすると、中規模よりも大規模の方が BPI 及び BPIIm は大きく、基準適合率は低いことが分かる。また、図 2.4.4 から分かるように、30,000m<sup>2</sup>以上の超大規模建築物のみを抽出すると、更に平均値は大きくなり基準適合率は低くなる。
- ・ 図 2.4.5、2.4.9、2.4.13、2.4.17 より、寒冷地、準寒冷地、温暖地の平均値や基準適合率に大きな差は無いが、蒸暑地は他の地域に比べて BPI 及び BPIIm の平均値は大きく、基準適合率は低い傾向がある。
- ・ 図 2.4.21、図 2.4.22 より、評価手法によって BPI 及び BPIIm の分布や平均値は大きく変わらないこと

が分かる。

2.5 節では、建物用途別に外皮基準の評価指標（BPI 及び BPI<sub>m</sub>）の累積相対度数を算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図 2.5.1 より、全地域、全規模で見ると、BPI 1.0 適合率については、病院、学校はほぼ 100%、事務所、ホテル、集会所、工場は約 95%と高いが、百貨店は 88.2%、飲食店は 82.0%と低い。BPI 0.8 適合率については、建物用途によって大きく異なり、BPI 0.8 適合率が高い順に、学校、病院、事務所、工場、集会所、百貨店、飲食店、ホテルとなる。特にホテルについて、BPI 1.0 適合率は 96.5%と高いが、BPI 0.8 適合率は 40.8%と他の用途と比べて低い。
- ・ 図 2.5.2 と図 2.5.3 より、BPI 1.0 適合率について、中規模の百貨店は 90.5%であるが、大規模では 78.5%、超大規模では 64.9%と規模によって差が大きいことが分かる。また、ホテル、百貨店の大規模建築物の BPI 0.8 適合率（ホテルは 24.5%、百貨店は 26.4%）は中規模建築物の BPI 0.8 適合率（ホテルは 53.9%、百貨店は 59.2%）よりも大幅に低い。また、図 2.5.4 より、30,000m<sup>2</sup>以上の超大規模建築物のみを抽出すると事務所、病院についても BPI 0.8 適合率が大幅に低くなること分かる。
- ・ 図 2.5.5、2.5.9、2.5.13、2.5.17 より、地域別に BPI 0.8 適合率を比較すると、寒冷地と準寒冷地においては大きな差は無いが、温暖地においてはホテル、百貨店の適合率が、蒸暑地においては全ての用途の適合率が、他の地域に比べて低いことが分かる。
- ・ 図 2.5.21、図 2.5.22 より、評価手法によって BPI 及び BPI<sub>m</sub> の分布や平均値は大きく変わらないことが分かる。

2.6 節では、主たる建物用途が「集会所」であり、モデル建物法で評価がなされた建築物を対象として、外皮基準の評価指標（BPI<sub>m</sub>）の累積相対度数を算出し、以下の知見を得た。

- ・ 図 2.6.1 より、全地域、全規模における BPI 0.80 適合率について、①アスレチック場、公衆浴場、図書館、博物館、ポーリング場、競馬場又は競輪場は約 90%以上、体育館、映画館、劇場、カラオケボックス、ぱちんこ屋、社寺は 60%弱、と 2 つのグループに分けられることが分かる。
- ・ 図 2.6.2 と図 2.6.3 より、BPI 0.80 適合率について、特に体育館、図書館、劇場、ぱちんこ屋、社寺については中規模よりも大規模の方が大幅に低いことが分かる。
- ・ 地域間の差は物件数が少ないため判断が難しいが、大きな差は見られない。

3 章では、モデル建物法で評価された非住宅建築物を対象として、一次エネルギー消費量基準の評価指標 BEI<sub>m</sub> と外皮・設備設計仕様の関係を分析した結果を示した。

3.1 節では、事務所について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど外壁及び屋根の熱貫流率が小さくなる傾向が見られるが、窓の熱貫流率及び日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI<sub>m</sub> ≒ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub> = 0.72、 $U_a$  値 = 1.24W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値 = 4.01 が平均値となる。設備設計仕様については、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯のうち厨房については給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。

- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模とほぼ同じ傾向である。設備設計仕様についても中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 寒冷地、準寒冷地については、温暖地と同様に BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られるが、蒸暑地については他の地域ほど明瞭な傾向は見られない。

3.2 節では、ビジネスホテルについて分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁、屋根及び窓の熱貫流率は小さくなる傾向が見られる。窓の日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI $\approx$ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.81、 $U_a$  値=1.14W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=3.50 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率は高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については、窓の熱貫流率の変化が中規模ほど大きくないなど多少の違いはあるものの、中規模とほぼ同じ傾向である。設備設計仕様についても中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 寒冷地、準寒冷地については、温暖地と同様に BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られる。蒸暑地については、物件数が少ないため判断が難しいが、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値については同様の傾向が見られる。

3.3 節では、総合病院について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 総合病院については、BEIm による外皮設計仕様の差は明瞭には見られない。中規模における BEI $\approx$ 0.8 の区分においては、BPI<sub>m</sub>=0.63、 $U_a$  値=0.94W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=3.18 が平均値となる。設備設計仕様については、大規模、中規模とも BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率は高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地以外の地域については、現状では物件数が少なく傾向の分析は出来なかった。

3.4 節では、クリニックについて分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEI $\approx$ 0.6 の区分を除けば BEIm が小さい建築物ほど外壁及び屋根の熱貫流率が小さくなる傾向が見られる。窓の熱貫流率及び日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、僅かではあるが BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI $\approx$ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.64、 $U_a$  値=0.88W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=3.17 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯のうち厨房については給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地以外の他地域についても、中規模については温暖地とほぼ同じ傾向が見られる。大規模については、現状では物件数が少なく傾向の分析は出来なかった。

3.5 節では、福祉施設について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁、屋根及び窓の熱貫流率が小さくなる傾向が見られる。窓の日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI≒0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.62、 $U_a$  値=0.91W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=3.60 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率は高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模とほぼ同じ傾向である。設備設計仕様についても中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 寒冷地、準寒冷地については、温暖地と同様に BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られるが、蒸暑地については他の地域ほど明瞭な傾向は見られない。

3.6 節では、学校について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁及び屋根の熱貫流率が小さくなる傾向が見られるが、窓の熱貫流率及び日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI≒0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.60、 $U_a$  値=1.24W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=4.32 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られる。給湯熱源効率については明瞭な差は見られない。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模と異なり、外壁及び屋根の熱貫流率の差は見られなくなるが、BPI<sub>m</sub> については BEIm が小さい建築物ほど値が小さくなる傾向が見られる。設備設計仕様については中規模と同じ傾向が見られる。
- ・ 寒冷地、準寒冷地、蒸暑地についても、物件数が少ない区分を除けば、温暖地と同様の傾向が見られる。

3.7 節では、幼稚園について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁及び屋根の熱貫流率が小さくなる傾向が見られるが、窓の熱貫流率及び日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI≒0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.59、 $U_a$  値=1.15W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=4.27 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模ほど明瞭な差は見られないが、BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値については BEIm が小さい建築物ほど小さくなる傾向が見られる。設備設計仕様については中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 準寒冷地、蒸暑地については、温暖地と同様に BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られるが、寒冷地については他の地域ほど明瞭な傾向は見られない。

3.8 節では、大学について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁及び屋根の熱貫流率が小さくなる傾向が見られるが、窓の熱貫流率及び日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られ、BEI $\approx$ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.53、 $U_a$  値=1.20W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=4.62 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模とほぼ同じ傾向である。設備設計仕様についても中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 寒冷地、準寒冷地、蒸暑地については、現状では物件数が少なく傾向の分析は出来なかった。

3.9 節では、大規模物販店舗について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、外壁及び屋根、窓の熱貫流率、窓の日射熱取得率とも明瞭な差は見られない。僅かではあるが BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub> は小さくなる傾向が見られ、BEI $\approx$ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.86、 $U_a$  値=0.85W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=2.56 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯のうち浴室については給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模と同様に熱貫流率や日射熱取得率に明瞭な差は見られないが、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値は小さくなる傾向は見られる。設備設計仕様については中規模と同じ傾向が見られる。
- ・ 寒冷地、準寒冷地、蒸暑地については、現状では物件数が少なく傾向の分析は出来なかった。

3.10 節では、小規模物販店舗について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど外壁、屋根及び窓の熱貫流率が小さくなる傾向が見られるが、窓の日射熱取得率については明瞭な差は見られない。また、BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られるが、BEI $\approx$ 0.6 については BEI $\approx$ 0.8 よりも値が大きくなっている。BEI $\approx$ 0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.81、 $U_a$  値=1.06W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$  値=3.41 が平均値となる。設備設計仕様については、BEIm が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率は高くなる傾向が見られる。また、BEIm が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。
- ・ 温暖地・大規模については物件数が少なく判断が難しいが、外皮設計仕様、設備設計仕様とも中規模とほぼ同様の傾向が見られる。
- ・ 寒冷地、準寒冷地については、温暖地と同様に BEIm が小さい建築物ほど BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値が小さくなる傾向が見られるが、蒸暑地については他の地域ほど明瞭な傾向は見られない。

3.11 節では、飲食店について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 温暖地・中規模の外皮設計仕様については、外壁、屋根、窓の熱貫流率及び窓の日射熱取得率について明瞭な差は見られない。BPI<sub>m</sub>、 $U_a$  値、 $\eta_{ac}$  値についても同様で、BEI の区分による差は見られない。

BEI≒0.8 の区分においては BPI<sub>m</sub>=0.84、 $U_a$ 値=1.29W/m<sup>2</sup>K、 $\eta_{ac}$ 値=4.21 が平均値となる。設備設計仕様については、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど空調熱源定格能力は小さく、空調熱源定格効率が高くなる傾向が見られる。また、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物ほど照明消費電力は小さくなる傾向が見られ、給湯のうち厨房については給湯熱源効率が高くなる傾向が見られる。

- ・ 温暖地・大規模の外皮設計仕様については中規模とほぼ同じ傾向である。設備設計仕様についても中規模と同じ傾向であり、規模による大きな差は見られない。
- ・ 寒冷地、準寒冷地、蒸暑地についても、物件数が少ないため判断が難しいが、温暖地とほぼ同じ傾向が見られる。

3.12 節では、工場について分析した結果を示し、以下の知見を得た。

- ・ 工場は照明設備、昇降機、太陽光発電設備が評価対象であるが、BEI<sub>m</sub> が小さい建築物は照明消費電力も小さい傾向があることが分かる。照明消費電力について地域や規模による差は見られない。